

葦

大阪発達総合療育センター機関紙
第19号

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

特集:川端先生を迎えて・外来診療

■特集によせて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長

梶浦 一郎



大阪大学整形外科吉川教授のご推薦により、大阪府立母子保健総合医療センター整形外科部長を長年務められた川端秀彦先生が今年の7月に就任されました。川端先生の就任は長い間待ち望んだ朗報で本当に喜ばしい事です。職員研修会での初めての講演では久しぶりに本来の臨床医学の姿を聞いたような気がして、清々しい喜びでした。

リハビリ、特に障がい児者のリハビリ活動は行為と結果がすぐに明瞭にならない。従ってともすればのんびりと緊張感が無く、日常を過ごしてしまいがちになります。しかし先生の話で眠気が覚めた気がしました。当法人の将来像として病院部門はあくまで急性期化(手術、短期集中リハを重点にして平均在院日数を減らす)を目指していくのに明るさが見えてきました。川端先生のたいなるご活躍を期待致します。

■特集によせて

大阪発達総合療育センター センター長

鈴木 恒彦



当センターの各外来診療は、小児科、整形外科、リハビリテーション科、歯科、泌尿器科等ありますが、それぞれの専門性を有する診療部分と、障がいをお持ちの患者さんを診る共有する部分があります。また大部分の患者さんは18歳未満であるために、ご両親や身内の方と同伴で受診されます。初診の患者さんは100%が他の医療機関から紹介いただく経緯から、様々な精密検査がすでに行われて診断がなされ、多くは今後の処置やリハビリテーション診療をどのようにするかが求められます。従って各科の先生方は、具体的な治療対応を求められることとなります。特にご両親やご家族は、麻痺や変形に伴う障がいの今後の推移や発達についての漠然とした不安をお持ちのために、私どもは何らかの回答を準備しなければなりません。幸いに当院の各先生方は、専門性を持ちながらもグローバルな小児医療に関心をお持ちの方々であることと、診療現場で円滑な受診を調整してくれる看護師諸氏の奮闘もあって盛況を極めています。



はじめまして

南大阪小児リハビリテーション病院 院長代理 川端 秀彦



今年の7月に南大阪小児リハビリテーション病院に入職しました。よろしくお願いたします。現在は堺市に住んでいますが、私はこの地域の出身で縁というものを感ずます。中学は教育大附属平野中学校、高校は大阪府立天王寺高校、大学は大阪大学と純粋の大阪人です。大学卒業後一定の研修を積んでから大学院に進みそのまま大学に就職しました。そして1991年に大阪府立母子保健総合医療センターに整形外科を開設するために異動しました。それから24年というこれまでの医者としての人生の大部分をそこで過ごしてきました。母子保健総合医療センターはご存じのように小児と産科に特化した病院で、私はそこでたくさんの障がいを持った子ども達を診てきました。多くは先天的な疾患で、このセンターが専門としている脳性麻痺はあまり多くはありませんでしたが、骨関節の病気で歩けない子ども達や先天異常や末梢神経麻痺で手を動かすことのできない子ども達が全国から集まってきていました。私は外科医ですからもちろん手術をしますが、局所的な見方をするのではなく、身体全体としての機能を考え、ひとりひとりの持つ背景を配慮するいわゆるトータルケアを心掛け、機能の改善とQOLの改善を目標としてそれを達成するために手術がどのような役割を持っているかを常に考えてきました。治療の具体的な目標は自分自身の足で歩けること、自分自身の手で食事をし身の回りのケアができるようになることです。子ども達には普通で両親など保護者がいてくれま



すが、当然いづれ1人になりその後の人生を自分だけで生きていかなければならなくなります。そのことを考えると、機能を少しでも改善させ、

それが終生退行しないようにして、永続的に自立して生活できるように準備を整えておくことが大切です。そのために必要な治療は手術を含めて積極的に行うべきで、これは早期リハ、集中リハ、継続リハという考えと根幹は同じものです。現在の日本のような高齢化社会ではお年寄りの医療が行政上の優先課題となることはしかたありません。しかし、少子高齢化が進むほどに老齢になっても身体的に自立することが求められますが、老齢者の身体的自立の基礎はすでに小児期に始まっているのです。将来を担うべき子ども達の健全な発育を支えることが、これまでも増して重要となっています。小児医療において子ども達が成長していく過程を見ることは楽しみのひとつです。赤ちゃんの時から診ていて成人になって、理学療法士や看護師になっている子も出てきています。もう少しすればここで働いてくれる子が出てくるだろうと確信しています。その子たちがまた次の世代の子たちをみる、そんな連鎖が形作られることを期待します。

この病院に就職して2カ月が経過した時点でこの記事を書いています。当センターの理念である「すべての人がもつ通常の生活を送る権利を、可能な限り障害者に保障する」ノーマリゼーションの精神とその基本運営方針であるチーム活動、社会との連携について、少しずつ理解してきました。が、これまでに見聞きした事はこのセンターの機能のごく一部なんだろうなと思っています。私はリハビリテーション医としての素養がありませんので、これから勉強していかなければなりません。保健や福祉についてもわからないことだらけです。一方で私が得意としている外科領域については、皆さんの理解を得ながら活性化させていきたいと考えています。さまざまな職種が有機的につながり合って非常にうまく機能しているこのセンターの中に、もう一つの核となる医療が根付くように努力していきたいと思っています。また、気持ちよく働ける、やりがいがある職場を皆さんと一緒に作っていききたいと思っています。よろしくお願いたします。

外来診療紹介

【整形外科】

診察日：
月曜午前、火曜午前、水曜、木曜、
金曜午前、第2・4土曜午前

鈴木 恒彦



創立以来当院の特徴として、発達障害や股関節脱臼、下肢変形等の小児整形外科領域を専門とした診療をしてきましたが、6年前からは脊椎側弯症の専門外来が新設され、この7月からは小児の四肢先天異常や分娩麻痺等上肢機能障害の専門家の大阪府立母子保健医療センター整形外科前部長の川端先生が赴任されました。外来は目下のところ100%紹介の充実発展の一途を辿っています。従来、保健所等から紹介された先天性の脱臼・変形だけではなく、最近では神経・筋疾患に伴う側弯症や股関節障がい、下肢・足部変形による重度の運動障害（坐れない、立てない）、原因不明の発達障害に伴う運動機能障害の乳幼児・学童の紹介が目立ちます。これらの障がい児とご家族の外来フォローのため、診療枠が常に一杯の現状です。ご紹介いただくご両親・親族の方からは、ご心配と不安から、多様で難しいご質問が多く、診療と説明に長時間を要することが少なくありません。現状としては、従来からの小児整形外科領域にこだわらず、障がい児整形外科領域にも対応すべく、各専門小児科の先生方のご協力・支援を得て診療能力の更なる強化に努めたいと念じています。

【側弯外来(プレーリー外来)】

診察日：金曜

梶浦 一郎



神経・筋疾患に伴う脊柱変形の保存的治療を専門に行う特別外来診療日を親しみやすくするため、動的脊柱装具 (Dynamic Spinal Brace：以下DSBとする) の愛称から取って、通称「プレーリー外来」と名付けて診察を行っています。

DSB (プレーリーくん) は2007年に脳性麻痺、レット症候群などに起因する側弯治療のため、当院で開発した全く新しい概念に基づく体幹装具です (特許番号4747327号)。開発以来急速に広まり、これまでに約1400名に装着しました。金曜日の午前は大川医師が診察し、午後は私が診察を行っています。毎回20名程の方の診療をしており、東京などの遠方からも来院されることもあります。

中には日常生活の必需品とされている利用者の方もいますが、まだまだ発展途上で、もっと有効な装具にするためには、改良が必要です。製造担当の鈴木義肢装具株式会社とも協力しながら、今後も利用される人たちと共に研究を続けていきます。

【装具診科】

診察日：
火曜午後、木曜午後、土曜午前

美延 幸保



装具診は、毎週火曜日の午後2時から4時、土曜日午前10時から12時に予約無しで行われています。火曜日・奇数週の土曜日は美延、偶数週の土曜日は松山が診察にあっています。

木曜日の午後は大川医師が担当している患者様の装具診を行っています。火・木・土曜日は川村義肢が主に製作にあたっています。月曜日の午前中、水曜日全日、金曜日プレーリー診察では側弯に対してプレーリーくんという愛称の動的体幹装具、麻痺性股関節障がいに対してグーくんという愛称の股装具や下肢装具などを予約診察の患者様に必要に応じて処方を出し鈴木義肢が製作にあたっています。

装具は、種々の機能障がいの軽減を目的として使用する補助機器と定義され、固定・支持・矯正・免荷・歩行・立位保持などを目的として製作され、治療のために使用され健康保険で作成される治療用装具と障がい固定し生活のために装具が必要な場合に障害者自立支援に基づき作成される更生用装具があります。これらの装具は、医師の診察のもと装具処方の指示をうけ義肢装具士が採寸・採型し製作にあたっています。適合判定は仮合わせ、完成時の2回行うのが一般的であり処方から完成まで一定の期間が必要です。

当院で取り扱っている主な補装具は、装具 (体幹装具、下肢装具、股装具、足底装具など) 座位保持装置、車椅子、電動車椅子、起立保持具、歩行器、頭部保持具、歩行補助杖などです。

【小児科(発達・神経外来)】

診察日：
火曜午後、水曜午前、金曜午前



船戸 正久

子どもさんの発達に関する問題は、1) 脳性麻痺（運動障害）以外に、2) 知的障害、3) てんかん、4) 注意欠陥多動障害、5) 自閉症スペクトラム障害、6) 学習障害、7) 発達性協調運動障害（不器用など）、8) 視覚・聴覚障害などがあります。その原因は様々ですが、出生前・中・後に病気で何らかの脳の損傷を受けることにより生じます。周産期に関するものでは、重症仮死と関係する低酸素性虚血性脳症や早産と関係する脳室周囲白質軟化症などが主な原因になります。先天異常、染色体異常、遺伝子異常、代謝性疾患、中枢神経に関わる感染症なども発達の遅れの原因となります。また急性脳症や交通事故など後遺症で何らかの障がいになることもあります。こうした障がいに対して、現在様々なアプローチが開発され、少しでも重症化を軽減する方法が色々研究されています。発達・神経外来は、発達検査などによる適切な障がい評価の上、原因や病態に応じてどのようなアプローチが一番良いか評価しながら、子どもさんのより良い発達・療育支援に橋渡しするための外来です。抗てんかん薬や筋弛緩薬などの薬物療法、理学療法・作業療法・言語療法などリハビリテーション療法（主にボバースアプローチ）、さらに心理療法（心の相談を含む）など他職種協働で支援します。必要な場合は、医療相談室と連携し様々な福祉的支援の情報を提供します。お気軽にご相談下さい。

（担当：船戸正久、和田浩、飯島禎貴）

【小児外科】

診察日：
月曜午後、金曜午後



塩川 智司

「障がいをもった子を医療でまもる、医療で支える。施設に縛ることなくどこでも」の診療理念のもとに、療育センター全部署と協働してよいチームワークを構築し、障がいを持つ子どもたちに高度で温かな医療を提供することを目指し、障がいを持つ子ども、およびその養育者を支えることを診療方針とし、外来診療を行っています。

小児外科は、臓器特異性がなく、頭頸部顔面、消化器、呼吸器、泌尿器系疾患に関わり患児の病態を改善させることを術としています。また経管栄養、静脈栄養法も得意とする守備範囲で、このような小児外科の特性は、障がいを持つ子どもたちの医療に適していると思わ

れます。殊に医療的依存度の高い重症心身障害児のQOL改善にむけて貢献できるのではと考えています。このような小児外科の特性を活かして、児を中心とした、よいチームワークを心がけてゆきたいです。

QOLを低下させている呼吸器系、消化器系などのさまざまな病態に対して、外科的治療をとおして、療養生活の改善、リハビリの増進、延いては児とご家族のQOL向上を目指しています。

外来診療は、月、金午後の週2回で、火曜の午後に造影検査など検査を行っています。

主に、消化器系に問題を持つ児の外来診療を中心に、経管栄養児の栄養路管理、栄養管理を要する方の診療、管理、相談などを行います。

外来検査は、超音波検査、造影検査、内視鏡検査（咽頭・喉頭、気管支、胃・十二指腸）をおこなっています。

障がいを持つ子どもたちのよりよい成長発達を祈りつつ、診療に取り組んでいます。

【呼吸器ケア科】

診察日：
月曜午後、木曜午後



竹本 潔

重度の障がいをお持ちの方や、筋肉の病気（筋ジストロフィーや脊髄性筋萎縮症など）の方の呼吸ケアに継続して取り組んでいます。

初診時の訴えとしては、

- ・ゼーゼーする（喘鳴）
 - ・睡眠時のいびき、無呼吸
 - ・ゼロゼロ・ゴロゴロして痰がなかなか切れない
 - ・気管支炎や肺炎を繰り返す
 - ・最近サーチレーション（SpO2）がなかなか上がらない
 - ・呼吸が浅い・二酸化炭素が溜まっていると言われた
- などのご相談内容が多く、それら呼吸障害の原因は、
1. 上・下気道の狭窄
 2. 咳の力の低下、嚥下障害による痰・気道分泌物の問題
 3. 呼吸筋の筋力低下や、胸郭の変形・拘縮による胸の膨らみやすさの障がいによる肺での換気量の低下のいずれかに大まかに分類されます。

具体的には、睡眠時の呼吸障害に対しては、まず在宅でできる夜間モニターで評価し、必要に応じて鼻エアウェイや夜間のマスク式陽圧呼吸療法を考慮します。

痰が切れにくいケースでは、排痰を補助する機械（カフアシストやパーカッションなど）を使用することもあります。必要に応じて夜間の人工呼吸療法（マスク式あるいは既にある気管切開を通じて）の導入も行っています。

患者さまの呼吸に関する様々な問題に対して、できるだけ具体的で有効なアドバイスができるように、臨床工学技士（ME）、理学療法士（PT）と協力して取り組んでいますので、どうぞお気軽にご相談ください。

【摂食嚥下外来】

診察日：月曜

片山 珠美



摂食嚥下外来は、口から食べること、飲むことに関する色々なご相談に対して、本年度は毎週月曜日に行っています。昨年度は延べ263件、院外他施設からの御紹介も年々増加しています。担当医は大阪大学歯学部顎口腔機能治療部の野原幹司先生、田中信和先生、小児科の柏木淳子先生(富田町病院)と私の4名で診察しています。摂食嚥下認定看護師の牛尾実有紀さん、言語聴覚療法士、時には小児外科の塩川智司先生、歯科の中村由貴子先生、歯科衛生士、管理栄養士にも協力していただき、チームで診察にあたっています。診察室では実際に普段食べていらっしゃる食材を食べていただいて摂食嚥下機能評価、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を行い、食事に関わる適切な姿勢・摂食方法の調整、安全な食形態の評価と指導、訓練法の評価を行っています。当院入院中、入所中の患者さんについても嚥下外来あるいは摂食嚥下チームのラウンドで機能評価をさせていただくこともあります。患者さんご本人、保護者や介助者の方々と共にたくさんの方で、楽しく安全に、そして満足できる口からの食事について一緒に検討していきたいと思っています。

【麻酔科】

北村 征治



当センターにおける主たる麻酔科の業務は、手術のための麻酔です。対象が小児なので、麻酔はほとんどが全身麻酔です。全身麻酔は、意識をコントロールし、痛みを100%感じないようにし、手術のストレスによる不都合な反射を抑えることが三要素です。同時に麻酔行為そのものによる体への影響(例えば呼吸・循環動態への影響)も少なくありません。手術中の体が安定した状態を保てるように維持管理することが、麻酔科の仕事です。そのために、麻酔科診を通じて患者さんのあらゆる情報を収集し、最新の身体の状態を把握し、麻酔計画を立てています。しかし、麻酔科医と患者さんとの接触の機会は少なく、通常はたった1回の術前診察ですべてを把握しなければなりません。一方、当センターの患者さんの大半が麻痺性疾患をベースとしており、加えて個々人の全身状態が異なるため、術前診察は不可欠です。特に重度障がいの患者さんでは生理的な適応力、予備力を見極めて、果たしてこの人に全身麻酔ができるのかを判断しなければなりません。当センターは小児総合病院のようなオールマイティーではありませんから、施設としての医療的対応能力の限界を考慮して、術中・術後に考えられる合併症によっては高度専門機関への紹介を判断します。特に外来における麻酔科診

は、入院前の全身状態が重度の人や重症の合併症を持っている人について主治医から麻酔科的判断を依頼される場合や、手術が入院翌日で入院後の余裕がない場合などです。

【ワクチン外来】

診察日：火曜午後

藤原 真須美



ワクチン外来は、火曜日の午後に当センターのリハビリに通院している方を中心に実施しています。実施しているワクチンはDPT-IPV(四種混合)、DT(2種混合)、MR(麻疹風疹混合)、麻疹、風疹、日本脳炎、ヒブ、肺炎球菌、不活化ポリオ、ムンプス(おたふく)、水痘(みずぼうそう)、B型肝炎です。

毎年11月から1月にかけてはインフルエンザ予防接種を行います。そのため、この間は先に述べたワクチン接種は実施しておりません。

予防接種の相談等も受け付けておりますので、お気軽にご相談下さい。

【障がい児歯科】

診察日：
月曜～金曜

中村 由貴子



診察日は月～金(9:30～16:30)、診療台は従来3台でしたが、今年9月に1台増設を行う事となりました。初診は18歳以下の方を対象とさせて頂いていますが、継続受診に関して年齢制限はありません。またセンター内の他科からの紹介の場合、初診年齢の制限はありません。

当科においては、一般歯科診療と同じく意識のある状態での歯科診療を行っています。しかしながら、例えば親知らずの難抜歯など身体的にも精神的にも侵襲が大きい処置などでは全身麻酔や鎮静剤の点滴といった薬物的コントロール下の方が安全な事もあります。そういったケースでは、他院を紹介させて頂き、後のメンテナンスに関しては再び当科で行っています。

安全で安心な歯科医療を提供するにあたっては、子どもさん・そのご家族さんとしっかりコミュニケーションをとり、信頼関係を築いてゆくことが欠かせません。障がい特性に応じる事も大切で、脳性麻痺を主体とした運動機能障害の方に関しては、安心できる安定したポジションを設定する事が、自閉症スペクトラムを主体とする発達障害のお子さんに関しては、特有の認知・コミュニケーションの困難性や感覚過敏に配慮した個別のプログラムが必要です。

口腔というセンシティブな部分を処置・ケアするにあたり、出来るだけ痛い・怖いといった不快要素を軽減し、可能であれば『気持ちいい』『楽だった』と感じて頂けるように努めています。

職員研修実施状況

H27年7月～H27年9月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成27年7月3日(金) 17:40～19:00	教育研修部	八鹿病院のALS(筋萎縮性側索硬化症)ケアチームの働きと音楽療法	公立八鹿病院 脳神経内科 近藤清彦先生	94名	5階ホール
平成27年7月9日(木) 9:00～17:00	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修2コース1日目	鈴木センター長・船戸園長・竹本部長他	41名	5階ホール
平成27年7月16日(木) 9:00～17:00	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修2コース2日目	塩川部長・井ノ上師長・高瀬薬剤科長他	41名	5階ホール
平成27年7月 21・23・24・27・28・29日 9:00～14:30	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修臨地研修	3・4階フェニックス師長・なでしこ 山口科長補佐	41名	3・4階フェニックス なでしこ
平成27年7月22日(水) 17:40～18:40	感染管理委員会	標準予防策・感染経路別予防策	(株)エスアールエル 薬剤師 雨宮 理氏	107名	5階ホール
平成27年7月24日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	臥位の最適なポジショニングのための考え方と実技演習	4階フェニックス	48名	PT室
平成27年7月31日(金) 17:40～18:40	教育研修部	自閉症スペクトラムの理解と支援について	梅花女子大学 教授 新澤伸子先生	121名	5階ホール
平成27年8月4日(火) 17:40～18:40	教育研修部	小児整形外科とは何か	川端秀彦院長代理	131名	5階ホール
平成27年8月26日(水) 17:30～18:40	教育研修部	多職協働による倫理的意思決定 アドバンス・ケア・プランニングとグリーフケア	船戸正久園長、脇暁子師長	115名	5階ホール
平成27年9月3日(木) 9:00～17:00	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修3コース1日目	鈴木センター長・船戸園長・竹本部長他	34名	5階ホール
平成27年9月10日(木) 9:00～17:00	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修3コース2日目	塩川部長・井ノ上師長・高瀬薬剤科長他	35名	5階ホール
平成27年9月 14・15・17・18・29日 9:00～14:30	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター 医療的ケア研修臨地研修	3・4階フェニックス師長・なでしこ 山口科長補佐	35名	3・4階フェニックス なでしこ
平成27年9月25日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	日常場面での歩行介助のハンドリング	ふたば	45名	PT室

イベントトピックス

あさしお園こどもまつり

8月1日、こどもまつりを開催しました。土曜日ということもあり、たくさんのご家族も参加してくださり、盛り上がりました！例年に加えてスヌーズレンやボールプールなどのコーナーも登場！ボランティアさんによる和太鼓演奏を聞いたり、体験もさせてもらいました！



花火大会



9月5日(土)天候に恵まれフェニックス花火大会が行われました。たくさんのご家族様と近隣の地域の方々にも参加していただき手持ち花火、仕掛け花火、最後にはナイアグラの滝と見応えのある花火大会となり、皆さん大変喜ばれました。

ポッチャ大会

9月4日(金)に大阪整肢学院、大手前整肢学園と当センターで3施設合同ポッチャ大会を開催しました。最初は少し堅かったけど、競技が始まると大盛り上がり！懇親会も和気あいあいとした雰囲気でお楽しみできました。



なでしこバザー

本年も皆様のご協力のもと、なでしこバザーを開催することができました。お陰様でたいへん盛況に終えることができました。なでしこ利用者も、それぞれ担当コーナーの活動に取り組み、充実したものとなりました。また来年度のバザーもどうぞ宜しくお願い致します。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

一般寄付金

月	寄付者 (敬称略)
7月分	井上 明生 真鍋 和夫・真鍋 貴広 国際ソロプチミスト大阪-中央 7月分楽基金11件
8月分	フェニックス家族の会 西田 俊一 榎田 幸代 8月分楽基金25件
9月分	匿名 井上 明生 9月分楽基金7件 上田雄一
あさしお園 ゆうなぎ園	あさしお園父母会 港区社会福祉協議会



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
あおば(児童発達支援事業)重症心身障がい児
TEL&FAX:06-7507-1277
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524